

まほろん

通信

Shirakawa since 2007



プレイバック

「まほろん感謝デー」

「まほろん森の塾」活動報告

企画展みどころ紹介

「戦後ふくしまの考古学2」

フルバック 令和5年 まほろん
 11月4日・5日
 Thank you always
感謝デー



館長のウルトラO×クイズ

館長から出題される色んな難問にチャレンジ！
 勝ち残った人には豪華賞品が渡されました！

行列必至！
 大人気コーナー **時代衣装を着てみよう**

子どもも、大人も
 中世の侍や姫に変身していました。



まほろん館長

この兜(かぶと)が
 クイズの賞品のひとつ

移動水族館アクアラバン

移動水族館のほか、ゴマフアザラシや魚の展示や、
 アクアマリンの職員による講演が行われました。



弓矢体験

遠くまでとばせるかな？
 何度も体験する方がいました。



真剣！

絵付け体験

高堂太遺跡(喜多方市)出土の皿を
 モデルにして絵付けに挑戦しました。



おりえびし **折烏帽子をつくらう**

お母さんが
 烏帽子姿になって
 みたよ！

表紙の1枚

感謝デーの時代衣装コーナーでの一幕。
 お父さんとお子さんたちが扮装している姿を一生懸命
 に撮影しているお母さんの様子です。

**まほろんぬりえ
 コンクール
 結果発表**

最優秀賞
 キッズ部門(小学生未満)
 薄井 快成 さん

ジュニア部門(小学生・中学生)
 佐野ななみさん 鈴木侖未衣さん

大人部門(高校生以上)
 鈴木有世 さん

まほろん館長が
 審査中の様子

★「ジュニア部門 最優秀賞」、「大人部門 優秀賞」については、得票数が同じとなった対象者が2人となったため、複数受賞となりました。

「まほろん森の塾」活動報告

文：和知 千紘（学芸員）

まほろん森の塾は、昔の暮らしや技術を実体験することで、歴史をわかりやすく、親しみやすく学習することを目的とした体験学習です。毎年小学4年生から中学生までを対象に塾生を募集しています。今年度は13名の塾生を迎えました。今年度は、奥州街道と街道沿いの文化財をテーマにした活動を5回にわたって行いました。



紙漉き作業

第1回は、江戸時代の奥州街道のルートと街道成立以前の道のルートについての変遷について学習しました。第2回の白川城の見学では、普段行く機会がない中世の山城跡でワークシ



白川城でボランティア佐藤さんから話を聞きました。



だるまに顔を書きます。全集中！

トの話題に取り組みながら土塁や空堀を観察しました。体験を通して石垣を用いた江戸時代の城とは異なる特徴をつかむことができました。第3回では2月の恒例行事「白河だるま市」で知られる白河の伝統工芸品「白河だるま」を作る体験をしました。製作にあたっては佐川だるま製造所の佐川明

子さん・理沙さんから作り方を指導してもらいました。材料となる紙を漉くところから始まり、だるまの型に張られた紙の上に自分で漉いた紙を張っていきました。最後に色塗りをしました。第4回では白河市内に残るお寺の見学と、だるまの絵付けを行いました。馬町にある大統寺ではお寺の歴史について住職の渡邊宗徹さんから説明を受けた後、座禅体験をしました。

また、県の重要文化財に指定されている本尊を見学することができました。愛宕町にある関川寺では中世の館の痕跡である土塁や空堀、結城宗広の墓を見学しました。お寺の見学では、小峰城の整備に合わせ

第5回では、これまでの活動の成果を展示パネルにまとめました。それぞれ班ごとに分かれて相談しながら、学んだことを書いた紙や選んだ写真を貼って完成させました。塾生は普段はあまり訪れる機会がない場所に文化財があることに気づくことができました。見学した文化財は現在でも地元の人たちによって大切に守られていることも知ることができました。「白川城はなんで使われな



いざ座禅体験！緊張気味の塾生

塾長より一言
自分たちが普段通る道のそばをはじめ、住んでいる地域にはどのような文化財があるのか関心を持ってもらえると嬉しいです。

第5回では、これまでの活動の成果を展示パネルにまとめました。それぞれ班ごとに分かれて相談しながら、学んだことを書いた紙や選んだ写真を貼って完成させました。塾生は普段はあまり訪れる機会がない場所に文化財があることに気づくことができました。見学した文化財は現在でも地元の人たちによって大切に守られていることも知ることができました。「白川城はなんで使われな



館長と自分たちで作っただるまを持って記念撮影

塾長 和知



塾生たちの作品

開発と文化財保護のはざままで

文：門脇 秀典（専門学芸員）



二本松市塩沢上原 A 遺跡調査風景

1950年代後半から1970年代前半までの高度経済成長期には、1964年の東京オリンピックや1970年の大阪万博などの特需があり、高速道路や新幹線といった高速交通網が整備されていきました。このような大規模な開発の波は、1960年代後半に東北地方にも立て続けに押し寄せ、人々の暮らしに大きな影響を与えました。一方、開発によって失われてしまう埋蔵文化財（遺跡）の保存が緊急課題として持ち上がりました。

東北自動車道は1966年7月に整備計画が決定され、本県中通り地方を南北115kmにわたって縦断することになりました。このことに対し、福島県教育委員会では同年11月に県内の考古学研究者などを集めた会議を開催し、遺跡の調査方法などが話し合われました。この会議の出席者の一人、目黒吉明氏*（故人）の手記には次のようなやり取りが記録されています。

※財団法人福島県文化センター遺跡調査課長（初代）



国見町川原遺跡調査風景

県教育長 （代理）	東北自動車道建設に伴い、多くの遺跡が壊されるので、事前に十分な調査を行いたいと思います。つきましては考古学研究者のご協力を願いたいと思います。
県高速道路 対策室担当	できるだけ早い自動車道の完成が望まれることから、速やかに埋蔵文化財の調査をお願いしたいと思います。
県文化財 担当者	1967年度までに分布・試掘調査を終え、その後、道路建設工事と並行しながら、速やかに発掘調査を実施することになります。発掘調査費はすべて日本道路公団（当時）が負担します。
考古学 研究者	切迫した状況であることは理解しますが、遺跡の優劣をつけることなく、すべてを重要な遺跡として調査してもらいたいです。
県文化財 担当者	すべての遺跡をくまなく発掘調査したいと考えています。なお、工事中に発見される遺跡があった場合も、速やかに対応します。
考古学 研究者	このような事態に対応するため、工事現場に対して文化財パトロールが必要ではないでしょうか。 （後略）

〈目黒氏手記より〉

以上の記録から、「すべての遺跡を重要な遺跡として調査したい」という当時の文化財関係者の考え方がひしひしと伝わってきます。その後、福島県教育委員会では埋蔵文化財担当職員を配置し、さらには1977年に財団法人福島県文化センター（当時）に遺跡調査課を設置するなど文化財保護の体制づくりを進めました。

2024年1月20日から開催中の企画展「戦後ふくしまの考古学2—高度経済成長期の発掘調査—」では、このような先人たちの記録をたどりながら、発掘調査で出土した遺物を紹介します。

今後のスケジュール

開催中～3/10（日）

企画展「戦後ふくしまの考古学2
—高度経済成長期の発掘調査—」

1/27（土）・28（日）・30（火）・31（水）・2/1（木）

実技講座「土師器づくり①：成形」

2/4（日）第5回館長講演会「石匠丁の考古学」

2/17（土）「戦後ふくしまの考古学2」関連講演会 1

3/2（土）「戦後ふくしまの考古学2」関連講演会 2

3/10（日）「土師器づくり②：野焼き」

※詳細はまほろんへお問合せいただくか、まほろんホームページをご覧ください。

まほろん公式SNS

フォロー＆チャンネル登録お待ちしています！

INSTA
GRAM

YOU
TUBE



編集後記

職員総動員でむかえたまほろん感謝デー。今年の感謝デーは弓矢や時代衣装体験などメニューを増やして開催しました。和気あいあいとした雰囲気の中で行われ、ご家族で撮影される様子も多く見受けられました。

来館者一人一人の笑顔により、職員一同の疲れも吹き飛びました。2024年もみなさんに学びと笑顔をお届けできるよう、頑張ります！

まほろん
通信
vol. 90

令和6年1月24日発行

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（2/12を除く）、年末年始（12/28～1/4）、2/13、3/21

入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

Fax 0248-21-1075

ホームページ まほろん 検索



今年もよろしくお願ひ致します